



高知市における春期のサシバの渡り

黒岩哲夫¹・西村俊彦²・橋本裕子³・吉本海男⁴

1. 〒780 高知市鴨部 1-1-26
2. 〒780 高知市加賀野井 2-11-5
3. 〒780 高知市愛宕山 11-1
4. 〒780 高知市一宮 2514-3

はじめに

サシバ *Butastur indicus* は日本には夏鳥として渡来し東南アジアなどで越冬する（森岡ほか 1995）。秋の渡りについては、これまでに日本各地で調査が実施されており、いくつかの渡りの経路が明らかにされている。その中で個体数が最大の経路は、東海地方から近畿南部および四国南部を縦断して九州南東部に至り、その途中でいくつもの経路と合流した上で、南西諸島を南下していくものである（森岡ほか 1995、武田 1989）。

しかし、秋に観察される個体数に比べると、サシバの春の渡りの観察記録は非常に少なく、春の渡りについては経路、時期ともに詳しいことはこれまでに明らかになっていない。

高知市周辺では、サシバの春の渡りは1988年4月3日に須崎市虚空蔵山で1,187羽が目撃されたのが初めてである（浜田 1988）。そこで日本野鳥の会高知支部の有志が1992年から高知市周辺で春のタカの渡りの観察を始めた。以後、観察地点の開発、渡りの個体数の把握、渡りの経路の追跡等を漸次実施し、春の渡りの概要の把握に努めてきた。ここでは、1997年までの高知市におけるサシバの春の渡りの観察結果について報告する。

調査方法

観察期間は3月下旬から5月までで、1992年は17日間、1993年は13日間、1994年は31日間、1995年は39日間、1996年は34日間、1997年は36日間である。

調査地は高知市観月坂および高知市円行寺である（図1）。観月坂は高知市北部に位置する標高80mの丘陵地で、最近団地が造成された。円行寺はさらに高知市の北端の標高400mの低山の尾根上で、観月坂から北に3kmに位置する。

1992年から1995年まではすべて観月坂で観察し、1996年と1997年は調査期間の前半は観月坂で、4月下旬以降は主に円行寺で観察した。これは、経験的に春の渡りの時期の前半は

1997年12月5日 受理

キーワード：高知市，サシバ，春の渡り

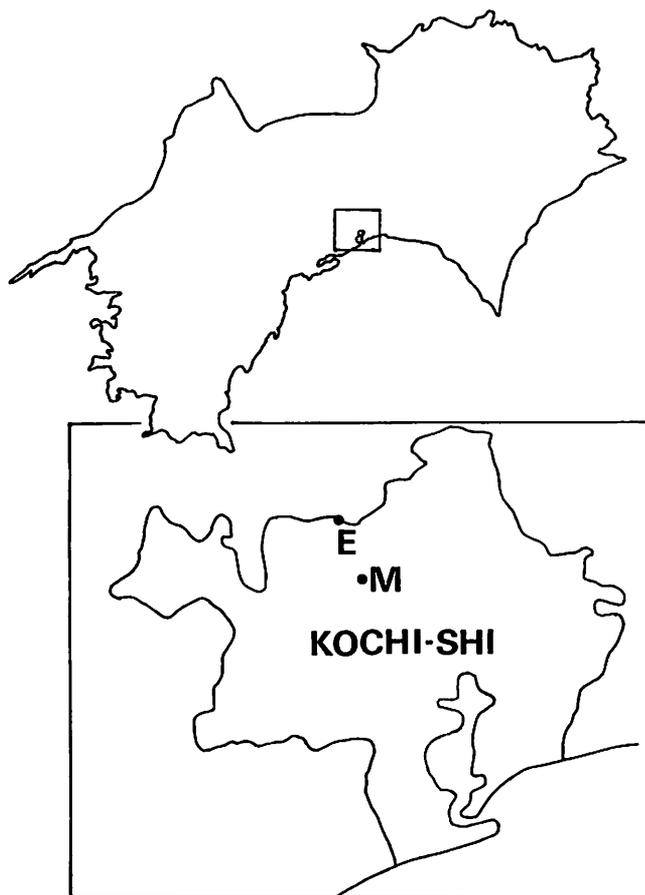


図1. 観察地点の位置図. M：観月坂, E：円行寺.
Fig. 1. Location of observation sites. M: Miduki-zaka, E: Engyoji.

観月坂でサシバがよく観察され、後半はより北側の円行寺で観察されることが多いということが知られているためである。

観察項目は、日時、天候、サシバの個体数、捕捉方角等である。また、サシバ以外の猛禽類についても記録をとった。1997年は目視で分かる範囲でサシバについて、淡色型暗色型の区別および成鳥か若鳥かの識別を試みた。観察には20倍の双眼望遠鏡、20～30倍の単眼の地上望遠鏡、8～10倍の双眼鏡を使用し、原則として2人以上で観察を行なった。

結果および考察

サシバの渡りの時期については、1992年から1997年の結果から、3月下旬から5月下旬までの2か月間にわたって観察されること、そのうち、3月下旬の後半から4月上旬に1日に観察される個体数のピークがあることが明らかになった(図2)。30日以上調査を行なった1994年から1997年のいずれも、その年の渡りで確認された総数の90%以上の個体が、4

月中旬までに渡った(図2)。いずれの年も、渡りが始まってから2週間以内に個体数がピークに達し、そのあと約1か月にわたって少数の個体が渡り続けるというパターンを示した。

確認されたサシバの総個体数は、1992年が3,266羽、1993年が1,575羽、1994年が5,854羽、1995年が6,518羽、1996年が8,229羽、1997年が6,863羽であった。春の渡りの期間中に観察していない日もあるが、少なくとも6,000羽から8,000羽以上の個体が渡っていることが明らかになった。

観察されたサシバの渡りの個体はすべて、観察地点から見ておおむね南西方向から飛来し、北西に飛去した。また、渡りの形態は、秋の渡りと同じく群れになって渡るものが多く、大きいものでは百羽を越える群れを形成していた。

1日の中での時間的な渡りのパターンには一定の傾向が見られず、個体数のピークの時刻は日によって早朝、昼或いは夕方とまちまちであった(図3)。これは、高知市周辺で観察されるサシバの渡りは、海峡を越える直前や直後ではなく、四国を西から東へ縦断する中間点にあたるため、特定の時刻に飛来のピークを示すことがなく、前日までにどこまで渡って

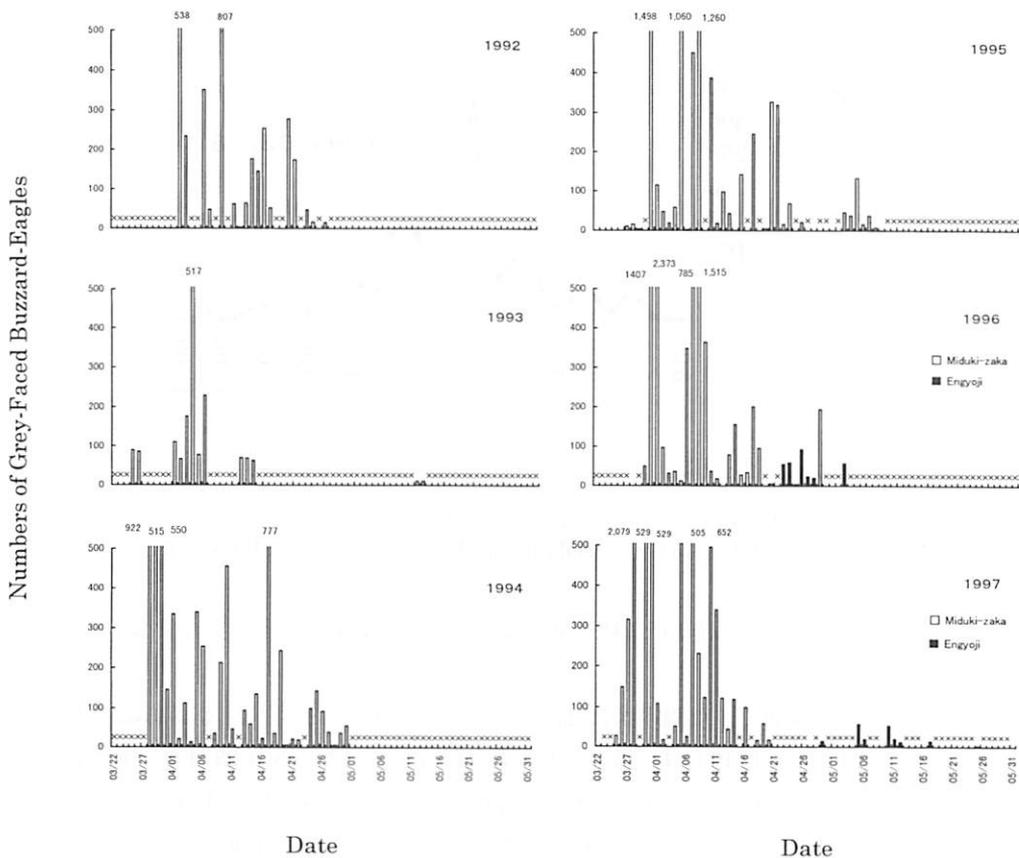


図2. 春のサシバの日別の観察個体数。白: 観月坂, 黒: 円行寺, ×: 観察せず。

Fig. 2. Numbers of Grey-faced Buzzard-Eagles observed in each day. Open bars: Miduki-zaka, Solid bars: Engyoji, ×: No sighting.

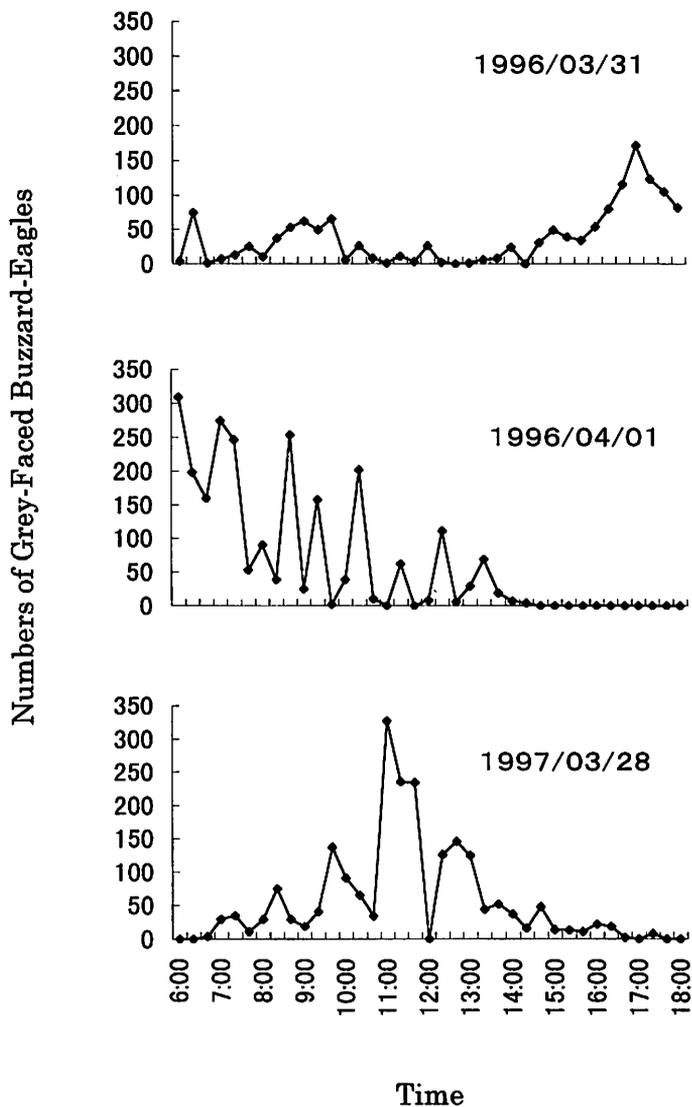


図 3. 観月坂でのサシバの時刻別観察個体数
 Fig. 3. Numbers of Grey-faced Buzzard-Eagles observed at Miduki-zaka.

きたかという状況次第で、高知市で観察されるその日の時間的なパターンが異なるものと思われる。

1997年に年齢を識別できた個体は55羽で、そのうち成鳥は19羽、若鳥は36羽であった。成鳥は3月27日から4月19日まで確認され、若鳥は5月5日から5月25日まで確認された。これまで、若鳥は1か月遅れて渡って来ると言われていたが(森岡ほか1995)、識別個体数は少ないものの、今回の観察結果はそれを裏付けるものであった。今回は、高知市北部で調査を行なったが、調査日数は少ないものの高知市南部でも同様の調査を行なった。それによると1997年では、3月28日は高知市南部の筆山では767羽、北部の観月坂では2,079羽、3

月30日は高知市南部の五台山では26羽、観月坂では529羽、3月31日は五台山では173羽、観月坂では529羽、4月7日は五台山では718羽、観月坂では652羽、4月8日は五台山では40羽、観月坂では232羽が観察されていて、おおむね高知市南部よりも北部の方が観察された個体数が多かった。高知市周辺におけるサシバの春の渡りの全体像を把握するためには、今後、高知市南部でも調査日数を増やし、高知市北部での調査結果とあわせて検討する必要がある。渡りの経路については、春の渡りではほぼ調査期間全般にわたって、高知市北部の方が高知市南部よりも多くの個体数が渡っていると考えられるが、秋の渡りでは、9月下旬から10月初めにかけては高知市北部で観察される個体数が多く、それ以降は高知市南部の個体数が多くなることが知られている（鷹の渡り観察組1995、西村1996、黒岩1997）。春と秋とで、2つの経路で観察される個体数の比率が異なる理由は、明らかでない。

また、今回の調査で観察されたサシバ以外の猛禽類については、ハイタカ属の識別が十分にできなかったものの、1997年にはハチクマ34羽、ノスリ16羽、オオタカ1羽、ハイタカ14羽、ツミ4羽、ミサゴ8羽、ハヤブサ7羽、クマタカ1羽の渡りが確認できた。ハチクマについては、34羽のうち32羽が5月に確認され、サシバとは異なる渡りのパターンを示した。高知市周辺は、ハチクマの西日本における渡りの主要な経路からは外れていると思われるが、なお西日本の太平洋側での小さな渡りの経路が存在する可能性がある。サシバ以外の種の春の渡りについても、今後の調査が必要である。

さらに、春の猛禽類の渡りについて、全国的な状況を明らかにするために、高知市以外の地域での観察結果を連携して取りまとめていかなければならない。

謝 辞

今回、日本野鳥の会高知支部の西村公志氏には、調査全般にわたって協力をしていただいた。同じく高知支部の西森義範、野島雄三、矢野聖、和田雅典、同徳島県支部の平尾和夫の諸氏をはじめとした多くの方々に調査を手伝っていただいた。また隣接県の徳島県支部の東條秀徳、愛媛県支部の楠木憲一の両氏には資料や助言をいただいた。さらに全国のパソコン通信の仲間に励まされ、情報の交換も行ない、長期に渡りの観察を行うことができた。また、執筆にあたり高知支部の佐藤重穂、豊田陽一の両氏には指導、助言をいただき一方ならぬお世話になった。以上、ご協力いただいた方々に、あわせて厚くお礼を申し上げる。

要 約

高知市北部で、春期のサシバの渡りを1992年から1997年に観察した。サシバの渡りは、3月下旬から5月下旬まで観察され、渡りのピークは3月下旬もしくは4月上旬であった。

観察されたサシバの総個体数は、多い年で8,000羽以上であった。渡りの観察される時刻は、早朝から夕方までで、出現時刻に一定の傾向はなかった。年齢を識別できた個体数は少なかったが、成鳥は4月までに確認され、若鳥は5月に確認された。

引用文献

- 浜田哲暁. 1988. 桜を見ながらサシバの渡り. しろぺん(17): 4.
 黒岩哲夫. 1997. 1996秋のサシバの渡り観察結果について. しろぺん (122): 4-7.
 森岡照明・叶内拓哉・川田隆・山形則男. 1995. 図鑑日本のワシタカ類. 文一総合出版, 東京.
 西村俊彦. 1996. サシバの渡り観察データ集計. しろぺん (111): 5-7.
 鷹の渡り観察組. 1995. '94 サシバの渡り観察記. しろぺん (98): 1-3.
 武田恵世. 1989. 日本列島におけるタカの渡り. Strix 8: 35-123.

The spring migration of Grey-faced Buzzard-Eagles in Kochi

Tetsuo Kuroiwa¹, Toshihiko Nishimura², Hiroko Hashimoto³ & Umio Yoshimoto⁴

1. 1-1-26 Kamobe, Kochi-shi, Kochi 780

2. 2-11-5 Kaganoi, Kochi-shi, Kochi 780

3. 11-1 Atagoyama, Kochi-shi, Kochi 780

4. 2514-3 Ikku, Kochi-shi, Kochi 780

The spring migrations of Grey-faced Buzzard-Eagles, *Butastur indicus* were observed in Kochi city from 1992 to 1997. The migration continued from the end of March to the end of May, with a peak from the end of March to the beginning of April. More than 8000 Grey-faced Buzzard-Eagles were observed in some spring migration seasons. The migration was observed from early morning to evening, and the time pattern of the migration was found to be variable. Adult Grey-faced Buzzard-Eagles were observed from April and young ones in May, though only a small number of birds were identified as adult or young.

Key words: Grey-faced Buzzard-Eagles, spring migration, Kochi-shi